

中央家保便り

平成28年9月発行
沖縄県農林水産部
中央家畜保健衛生所
南城市大里字平良2505
TEL
(098) 945-2297
FAX
(098) 945-3467

PED非発生農場に復帰しました！

今年6月に豚流行性下痢(PED)が発生した本島南部の2農家は、8月10日をもって非発生農場に復帰しました。

検査頭数 : 1農家あたり60頭
(早期復帰のための検査)
検査材料 : 直腸スワブ
検査方法 : PCR検査
検査結果 : 全例陰性

▶県内でのPED発生農家はなくなりましたが、今後も引き続き、飼養衛生管理基準の遵守に努めましょう。

▶PEDを疑うような症状(下痢、嘔吐など)が見られた場合は、速やかに家保へ連絡してください。

家畜の生産性を維持・向上する 対策に取り組みましょう！

まだまだ暑い残暑☀

夏バテや残暑の影響による採食量や受胎率の低下等、生産性が悪化することを防ぐ為には、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりが大切です。

畜舎環境面から

☆畜舎外から畜舎温度を下げる

- ・樹木や遮光ネット等の設置
- ・屋根・壁・床への断熱材の設置、塗布

☆畜舎内から畜舎温度を下げる

- ・換気扇や扇風機での送風
- ・家畜への直接送風・散水



飼養管理面から

☆密飼いを避けて、体感温度とイライラの低減

- ・毛刈りの実施（例：牛）

☆飼料給与等の工夫

- ・冷たい水が十分に飲めるようにする
- ・涼しい時間帯に飼料給与するとともに、給与回数を増やす
- ・良質で消化率の高い飼料を与える
- ・必要に応じ、ビタミンやミネラルを給与し、栄養不足を補う

しかし、9月中旬以降は、日中の寒暖差にも注意が必要です。
早めの保温対策、夜間の冷えなど、こまめな温度管理に気を遣いましょう。

浄化処理をうまく行うための技！

ポイントは活性汚泥

活性汚泥とは「微生物の集団」です。浄化処理をうまく行うには、活性汚泥の濃度を適正な範囲に保つ必要があります。

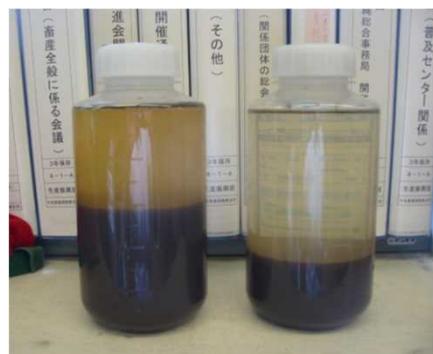
1) まずは、SVをつかむ！

・SVは、活性汚泥濃度を知る簡単な指標です。
SV24が20%～40%にあればおおむね適正です。

・測定方法は超簡単！農場でできます！！

- ①1Lの容器(ペットボトルでも可)を準備
- ②曝気槽の混合液1Lを入れる
- ③24時間静置、沈降した汚泥含む割合を判定

SV24が40%以上 ⇒ 放置すると活性汚泥の活力が低下。
SV24を目安に汚泥の引き抜きを行いましょう。



左：悪い例 右：良い例

2) 次に、透視度をつかむ！

・透視度は、浄化処理がうまく行われているかどうか、を知る指標です。
排水基準を満たしている処理水の透視度は15cm以上とされています。

・これも測定方法は超簡単！農場でできます！！

- ①メジャーの先端に十字マーク(標識板)を取り付ける
- ②容器に処理水を取り、①を入れる
- ③十字(標識)が見えるところまでメジャーを降ろして、何cmか読む
- ④15cm以上で十字を読むことができれば
おおむね良好



※15cm以下の場合は、曝気時間の延長
や希釈水の投入量を増やすなど調整しましょう。

豚パルボウイルス病が発生しました

沖縄本島内の養豚場において豚パルボウイルス(PPV)が原因の異常産が発生しました。

豚パルボウイルス(PPV)とは

- ◇鼻汁、唾液、糞便、精液中に排泄され、それが鼻や口から感染する
- ◇非常に抵抗性が強く、一般の消毒薬でも不活化されないため、環境中に長く生存する ⇒ 一度農場に侵入すると清浄化することは不可能
- ◇陽性農場になれば加齢とともに自然感染し、一度感染すると再感染を起こさなくなる(終生免疫獲得)

症 状

◆母豚

分娩予定日前後に異常産を起こすことが多く、それまで特に症状を示さない
異常産子は白子、黒子、ミイラ胎子と様々



◆子豚

起立不能など虚弱症状を示すが、日本脳炎のような神経症状はない

◆雄豚

発症したり精液性状に障害を及ぼすことはないが、精液中にウイルスを排出する

対 策

◎ワクチン接種を行いましょう！

- ・PPV汚染農場であれば、未經産豚の初回交配1ヶ月前までにワクチン接種を行う。
- ・農場の抗体保有状況を調べて、適切なワクチネーションプログラムを組むことが大切。

沖縄県中央家畜保健衛生所 TEL 098-945-2297

HPアドレス <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/kahochuo/press/kahodayori.html>